

学校教育目標	人権尊重の精神を重んじると共に《生きる力》の育成を目指し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の充実に努める
--------	---

《本年度の重点目標》
《重点目標1》 確かな学力の向上の取組を行う。
《重点目標2》 健康で、安全・安心な学校づくりを推進する。
《重点目標3》 家庭・地域と連携し開かれた学校づくりを推進する。

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
関する向上取組に	【授業改善①】 「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思えますか(質47)」で肯定的回答をする生徒の増加 【授業改善②】 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思えますか(質59)」で肯定的回答をする生徒の増加	○アクティブラーニングを取り入れ、授業の終わりに学習のまとめを生徒に書かせる。 ○毎時間の授業の中で「めあて・まとめカード」を活用し「めあて」と「まとめ」を明らかにするように努力する。 ○一単元の授業の中で、グループ学習を取り入れる。ホワイトボードやデジタイマーを活用することにより、「意見を出す、聞く」活動を充実させることにより、生徒同士の考えを共有させる。 ○管理職、主幹教諭、研究主任が授業見学を行い、授業改善につながる助言を行う。 ○授業改善シートを活用して、授業の振り返りを行うことにより、授業力の向上を目指す。	A	【授業改善①】 ○生徒アンケートを実施した結果で肯定的回答をする生徒の割合が達成目標に到達した。 ○授業力向上週間で授業改善シートを用いて、授業力向上を図った。 【授業改善②】 ○肯定的回答をする生徒の割合が達成目標に到達した。 ◆「めあて・まとめカード」の毎時の使用の徹底には至らなかった。どの授業においても使用の徹底を図る。 ◆振り返りの時間に関して、生徒の言葉で書かせる活動を行うための時間の確保の充実を図る。
	【補充学習】 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか(質33)」で肯定的回答をする生徒の増加	○気になる生徒は放課後に補充授業を行ったり、学力考査前に質問教室を開いたりし、学習内容の定着を図る。 ○定期考査後、理解できていない箇所を霧中ノートに取り組みさせるなど定着を図る。	A	【補充学習】 ○肯定的回答をする生徒の割合が達成目標に到達した。 ○次年度も放課後質問教室等の参加を促し、生徒の学習内容の定着の推進を図る。
	【家庭学習】 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか(質21)」で肯定的回答をする生徒の増加	○「家庭学習の手引き」を作成し、読み合わせを行い、日頃から霧中ノートを用いて家庭学習を計画的に行うよう指導する。 ○定期考査前には学活を利用し、計画を立てさせ、担任が計画内容のアドバイスを行う。 ○学期末に生徒アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。	B	【家庭学習】 ◆肯定的回答をする生徒の割合が達成目標にわずかに到達できなかった。 ◆引き続き霧中ノートを使用した家庭学習の定着を図り、学級担任による指導を推進させる。 ◆学習計画表の点検の組織的指導に課題が残ったため、次年度はその改善を図る。
関する向上取組に	【授業改善】 「体育の授業が楽しい(16)」肯定的回答をする生徒の増加	○具体的な取組としては、単元によって、ランキング等の掲示も行い、全校生徒への周知や意欲の向上につなげる。 ○生徒の各自の目標を設定して、その目標をクリアできるように具体的な指導助言を行う。	A	【授業改善】 ○5分間走の個人ランキングや各単元でのランキングを掲示することで、生徒が目標を持って意欲的に取り組むことができた。 ◆各単元で目標設定用紙を使用した、3年間を通して使用できたり、家庭等で継続的に運動に取り組める意欲を持たせる工夫を図る。
	【運動習慣】 ○一校一取組として、年間を通してみんなで、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びを体育の授業で実施する。その際、単元との関連性や生徒の実態に応じて実施種目を選択し、強化を図る回数の割合増加	○新体力テストを全学年・全種目、適切に実施するために全職員で研修を行う。 ○新体力テストの結果をもとに、体力向上担当者を中心に分析し、保健体育科で生徒の実態を把握するとともに、生徒の実態に応じた一校一取組について検討・決定する。	A	【運動習慣】 ○全学年に共通した課題の全身持久力の強化を毎時間行うことで、単元の持久走の時期以外でも体力向上を図ることができた。 ◆定期的に新体力テストの項目を実施し、各自の体力向上や課題の把握ができるようにし、さらに補強運動に対して意欲的に取り組めるようにする。
関する育取組に	【授業改善①(道徳)】 「将来の夢や目標を持っていますか(質9)」の肯定的回答をする生徒の増加	○道徳の時間に内容項目1-2「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、進路学習を通して将来について考える場面を多く設定する。	B	【授業改善①(道徳)】 ○肯定的回答をする生徒の割合が達成目標にわずかに到達できなかったが、アンケートを実施するたびに肯定的回答をする生徒が増加している。 ◆特別活動で進路学習の充実を図り、将来についてしっかりと考えることができる授業構成を行う。
	【授業改善②(特別活動)】 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している(質5)」 「自分には、よいところがあると思う(質6)」の肯定的回答をする生徒の増加	○学期に最低1回は「北九州子どもつながりプログラム」を実施し、生徒同士の人間関係を深め、自尊感情や自己肯定感を高めさせる。また、学級では一人一役を実施して学級内での所属感をもたせる。 ○人権教育の充実に努め、新版ののちを使った授業を行う。	A	【授業改善②(特別活動)】 ○公開授業に向けて研修を重ねることで、生徒だけでなく、職員の人権意識も高まった。 ◆肯定的回答をする生徒の割合が達成目標にわずかに到達できなかった。次年度も継続して自尊感情や自己肯定感を高めさせる職員研修を行う。
関する取組	【授業力向上】 ○「授業改善評価シート」を活用し、学習のめあてを明確にして、指導方法・評価の工夫改善を実施する肯定的回答をする生徒の増加 ○指導主事要請授業を通して、職員全体の研修を行い、「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」の肯定的回答をする生徒の増加	○一学期の学力・体力向上学校訪問、代表者授業を通して、指導方法・評価の工夫・改善を図る。 ○授業力向上強化週間を毎学期に設定し、授業改善シートを活用して互いに授業を参観し合い振り返りと改善を行う。全体会も実施し、成果と課題を検証する。 ○夏季休業日に研修会を行い、生徒の実態把握と分析を行い、目標の設定見直しを含め、情報共有を行う。	A	【授業力向上】 ○全職員が「授業改善活用シート」を使用して参観し、授業者にアドバイス等を行い、授業者が自分の授業を振り返ることができた。 ○「授業改善評価シート」を活用し、学習のめあてを明確にして、指導方法・評価の工夫改善を実施する肯定的回答が達成目標に到達した。 ◆「めあて」の内容が充実してきたが、「まとめ」から考えて「めあて」が作成できるように確認した。
健康・安心・安	○いじめの未然防止、いじめゼロを目指す。 ○児童の教育的ニーズを把握して、自立に向かうための指導・支援と校内体制を構築するとともに、関係機関と適切に連携する。	○「心のアンケート」を毎学期全校で実施する。 ○担任との教育相談の機会を設け、必要に応じてSC、SSWとの連携を図りながら組織的に対応する。 ○特別支援教育に対する理解が深まるように、職員会議後に情報提供のための連絡会を積極的に開催する。 ○特別な支援が必要な児童、保護者との話し合いを行い、適切な関係機関と連携、支援ができるようにする。	A	○「心のアンケート」を毎学期実施できた。必要に応じた面談や学期に1度は定期的な面談を行うことで生徒の状況を把握することができた。 ○担任だけでなく、SCなどと連携を図ることで心の安定を図ることのできる生徒が増えた。 ◆SCの来校日が限られているので、相談日の設定が難しい場合がある。相談体制の再検討を行う。 ◆生徒に応じて、よりよい支援の在り方や専門機関との連携ができるよう検討していきたい。
開かれた学校づくり	○「あいさつ日本一」が達成できるように、地域の方と一緒に日々の継続的な朝のあいさつ運動を行う。 ○保護者、地域と情報を共有し、連携を推進する。	○生徒会が中心となり毎月10の日あいさつ運動に小中連携で取り組む。 ○スクールヘルパーの方々を中心に毎朝あいさつ運動に取り組む。 ○学年・学校通信、学校ホームページを通して情報発信を行う。 ○授業参観や学習発表会、学校開放週間を通して、情報発信を行う。 ○地域の行事への積極的な参加を促す。	A	○毎月10の日あいさつ運動に小中連携で取り組むことができた。 ○毎朝あいさつ運動に取り組むことにより、生徒が自覚し、気持ちのよいあいさつができるようになった。 ○学年・学校通信の発行、ホームページの更新を定期的に行うことができた。 ○学校開放週間には、学習発表会へ多くの保護者、地域の方の参観があり、学校の活動を見ながら理解していただく機会となった。 ◆ICTサポーターの来校日の都合があり、タイムリーにホームページの情報更新ができない部分もあった。